

川内川水防災河川学習プログラム  
小学校 5 年生 社会 小单元「自然災害を防ぐ」

## ○川内川水防災河川学習プログラム「自然災害を防ぐ」

### 1.学習指導要領における第5学年の目標（学習指導要領※より抜粋）

- 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。
- 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

※文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 社会編」

### 2.学習指導要領における単元の内容（学習指導要領※より抜粋）

(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

- 自然災害の防止と国民生活とのかかわりを取り上げ、我が国の国土では地震や津波、風水害、土砂災害、雪害などの様々な自然災害が起りやすきこと、その被害を防止するために国や県（都、道、府）などが様々な対策や事業を進めていることなどを調べる。
- 地震や津波、火山活動、台風や長雨による水害や土砂崩れ、雪害などの被害の様子、国や県などが進めてきた砂防ダムや堤防などの整備、ハザードマップの作成などの対策や事業を取り上げる。
- 地図や統計、写真などの資料を活用したり、関係機関に従事する人に聞き取り調査したり、インターネットなどで自然災害の防止に関する情報を集めたりして具体的に調べるようにする。
- 自然災害が起りやすい我が国においては、日ごろから防災に関する情報などに関心をもつなど、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることについても気づくように配慮する。

※文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 社会編」

### 3.第5学年の評価の観点の趣旨（参考）※

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 社会）」より抜粋

### 4.評価のポイント※

#### ○社会的事象への関心・意欲・態度

- ・自然災害の防止の取組に関心を持ち、意欲的に調べている。
- ・自然災害の防止の重要性に関心を持ち、協力の大切さを考えようとしている。

#### ○社会的な思考・判断・表現

- ・自然災害の防止の取組について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
- ・国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを考え、自然災害が起こりやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。

#### ○観察・資料活用の技能

- ・地図や地球儀、その他の資料などを活用して必要な情報を集め、読み取っている。
- ・調べたことを白地図や作品などにまとめている。

#### ○社会的事象についての知識・理解

- ・国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを理解している。
- ・自然災害の防止の取組、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを理解している。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 社会）」を参考に作成。

## 5.川内川学習プログラムにおける単元の目標

日本の風水害の発生状況や防災・減災の取り組みを学ぶにあたり、さつま町や身近な川内川を事例として取り上げ、国（川内川河川事務所）や都道府県（鹿児島県）、市町村（さつま町）の取り組みについて調べることを通し、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

## 6.学習のねらい

平成 18 年 7 月洪水時の経験から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。

## 7.授業の構成

本小単元の学習プログラムは 4 時間で構成しています。

第 1 時 「自然災害の多い 日本」	第 2 時 「災害を防ぐため に（公助）」	第 3 時 「災害を防ぐための地 域での取り組み（自助・ 共助）」	第 4 時 「自然災害から身を守るた めにわたしたちができるこ と（自助）」
<ul style="list-style-type: none"><li>日本のどこかで、毎年のように大きな自然災害が発生していることを知る。</li><li>日本では自然災害が起こりやすいことを知る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>平成 18 年 7 月洪水によるさつま町での被害を取り上げ、風水害への関心を高める。</li><li>さつま町で行われている水害を防ぐための取り組みを知る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>地域での自助・共助による減災のための努力を知る。</li><li>自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを知る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>災害に備えて自分たちにできることを考える。</li></ul>

## 8.指導計画

### ○「自然災害を防ぐ」指導計画（全4時間）

	本時の問い	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	☆評価のポイント
つかむ	①自然災害の多い日本 1時間	○我が国で近年起こった自然災害を調べて、なぜ日本は自然災害が多いのかを発表し、まとめる。 ○自然災害の多さから、その被害の防止について関心を高め、調べることを話し合っって学習問題をつくる。  学習問題：人々は、自然災害をどのように防いでいるのだろうか。	◆世界と比較しながら、我が国の国土には、自然災害が起こりやすいという特色があることに気づかせ、学習問題につなげさせる。	☆〔技能〕 自然災害について資料などから読み取ってまとめている。 ☆〔思・判・表〕 自然災害の防止の取り組みについて学習問題を考え、表現している。
調べる	②災害を防ぐための地域での取り組み（公助） 1時間	○自然災害（主に地震、津波、土砂災害）の被害を防ぐための国や都道府県、市町村の対策や事業を調べ、わかったことを発表する。	◆さつま町や川内川で実施されている事例をみながら、被害を防ぐために国や都道府県、市町村が実施している取り組みを知る。	☆〔知・理〕 国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていること、自然災害の被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。
	③地域のみならずで災害を防ぐ（自助・共助） 1時間	○「平成18年7月豪雨時の避難者や救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校子どもたちの行動」などから「なぜ自分やみんなの命を守ることができたのか」について、気づいたことや考えたことをもとに話し合う。	◆平成18年7月豪雨時の経験や釜石市の小学生の行動から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。	☆〔関・意・態〕 自然災害の防止の重要性に関心をもち、協力の大切さを考えようとしている。 ☆〔思・判・表〕 国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え、自然災害が起こりやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。
	④自然災害から身を守るためにわたしたちができること（自助） 1時間	○これまでの学習をもとに自然災害から自分の身を守るためにはどうすればよいのかを考える。 ○災害に備えて自分たちにできることについて話し合い、発表する。	◆災害に備えて自分たちにできることを自助として考え、提案させる。	

※本指導計画は、平成24、25年度にさつま町立盈進小学校で作成された試行授業の指導計画案を元に「川内川水防災河川学習プログラム検討会」での議論を経て作成したものである。

9.各時間の内容

○「自然災害の多い日本」（第1時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」(全4時間)の導入の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で自然災害(津波・地震・噴火・土砂崩れ・水害・台風)の写真を見せる。</li> <li>・日本は自然災害が多い国であるかを予想させ、実際に多いことを資料を通して確認させる。</li> <li>・なぜ世界に比べて自然災害が多いのか、予想させノートにまとめる。</li> <li>・自然災害が多い理由の因果関係を全体で確認する。</li> <li>・日本は自然災害が多い国であるのに、死者数が少ないのはなぜか考えさせ学習問題を立てさせる。</li> </ul>
(3) 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入では、最近の新聞やニュース記事での自然災害を引用し、身近な問題として実感させる。</li> <li>・我が国の国土には自然災害が起こりやすいが、世界と比べて自然災害の死者数は少ないという点を気づかせ、学習問題につなげさせる。</li> </ul>
(4) 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で起こっている様々な自然災害を知る。</li> <li>・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知る。</li> <li>・自然災害に対する取組みが行なわれていることにつなげる。</li> </ul>
(5) 教科書・指導書 該当ページ	<p>教科書：東京書籍「新しい社会5下」P.102～103</p> <p>指導書：・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 指導編 P.102～103</p> <p>・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 研究編 P.105</p>

## (6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①全国の自然災害の写真	板書	付属 DVD (教材データ集) に収録
②世界全体に占める日本の国土面積の割合 (世界地図)	板書	
③世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合 (グラフ)	板書	
④日本の国土の地形 (グラフ)	板書	
⑤「台風はいつごろ近づくの」	板書	
⑥世界の地震の震源の分布	板書	
⑦世界の火山の分布	板書	
⑧日本と世界の川の勾配	板書	
⑨日本と世界の平均降水量	板書	
⑩世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合 (グラフ)	板書	

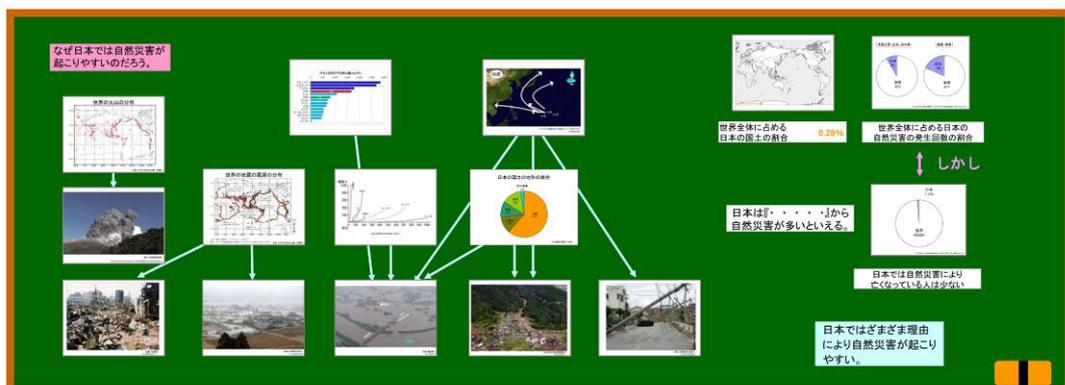
## (7) 参考資料

資料名	形式	備考
1 日本と世界の降水量	PPT	付属 DVD (教材データ集) に収録
2 平成 18 年洪水時のまちの高さと川の水面	PPT	
3 日本と世界の川の勾配	PPT	
4 日本の水害・土砂災害の発生回数	PPT	
5 雨が多い季節	PPT	
6 日本周辺のプレート	PPT	
国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」(台風はいつごろ近づくの) < <a href="http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/">http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/</a> >	インターネットサイト	台風の経路
一般財団法人日本気象協会「日本地震マップ」- 地震発生状況を地図とアニメーションで表示- < <a href="http://www.quakemap.info/">http://www.quakemap.info/</a> >	インターネットサイト	地震発生状況

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (10分)	1 最近ニュースでの自然災害の話題はないか考える。 2 全国の自然災害の発生状況の写真を見て、「自然災害」にはどのようなものがあるかを考える。  めあて：なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本で起こっている様々な自然災害の怖さに気づかせる。</li> </ul>	<b>【教材①】</b>  地震(兵庫県) 津波(宮城県石巻市) 洪水(福岡県) 土砂崩れ(熊本県阿蘇市) 火山の噴火(宮崎県新燃岳) 台風(沖縄県宮古島市)
展開 (30分)	3 なぜ日本は自然災害が起こりやすい国なのかを、世界と比較する資料で考える。 4 日本で自然災害が多い理由を予想し、ノートにまとめ発表する。 ○海に囲まれている ○山が多い ○雨が多い ○荒れた森林が多い ○台風の通り道 ○地盤プレート ○川が急流 ○山が多いから ○火山が多い 5 発表した予想について、資料で確認する。 6 日本で自然災害が多い理由をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本で様々な自然災害が発生する理由を気づかせる。</li> <li>● 様々な自然災害と児童が考えていた理由を矢印で関連付けて、板書を構造化していく。</li> </ul>	<b>【教材②】</b> 世界地図 <b>【教材③】</b> 世界全体に占める日本の自然災害の割合 <b>【教材④】</b> 日本の国土の地形 <b>【教材⑤】</b> 「台風はいつごろ近づくの」 <b>【教材⑥】</b> 世界の地震の震源の分布 <b>【教材⑦】</b> 世界の火山の分布 <b>【教材⑧】</b> 日本と世界の川の勾配 <b>【教材⑨】</b> 日本と世界の平均降水量
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本ではさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。</li> <li>○ 日本は自然災害が多い国であるにもかかわらずなぜ亡くなった人の数が少ないのだろう。</li> <li>7 「誰がどんな備えをしているのだろう」という学習問題を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本は自然災害が多い国であるにもかかわらず亡くなった人の数が少ない理由を考えさせる。</li> </ul>	<b>【教材⑩】</b>  世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合(グラフ)

(9) 板書計画



教師の発問（子どもの反応）

T:最近日本ではどのような自然災害が起こっているのでしょうか。

(C:大雪)

T:そうですね。それでは大雪以外にどんな自然災害があるのでしょうか。

(C:地震,津波,洪水,土砂崩れ…)

児童の答えに合わせて黒板に全国の自然災害の写真【教材①】を貼っていく。

T:日本には自然災害がこんなにたくさんあります。今日から私たちは何について勉強していくのでしょうか。

(C:自然災害。)

T:今日は、これからの授業で自然災害の何について勉強していくか学習問題をつくりましょう。

世界全体に占める日本の国土面積の割合（世界地図）【教材②】を黒板に貼る。

T:世界全体に占める日本の国土の割合はどれくらいでしょうか。

(C:0.1%,0.2%…)

T:世界全体に占める日本の国土の割合はわずか0.28%です。

世界全体に占める日本の自然災害の割合（グラフ）【教材③】を黒板に貼る。

T:でも、世界全体に占める日本の自然災害の割合はこんなにあります。なぜ日本では自然災害が多いのでしょうか。  
グループで話し合わせ、予想をノートに書かせる。

(C:山が多いから。)

T:なぜ山が多いと自然災害が起こりやすいのでしょうか。

(C:山では土砂崩れが起きる。)

日本の国土の地形【教材④】を黒板に貼り、山地が多いことを確認する。

T:日本の山地の割合は61%です。日本は山地が多いのですね。

T:他にはありませんか。

(C:海に囲まれている,台風の通り道,地盤プレート,雨が多い,川が急流…)

※以降、児童がする内容に合わせ【教材⑤～⑨】を黒板に貼り、確認することを繰り返す。

T:日本で自然災害が多い理由をみんなで確認していきましょう。土砂崩れが多い理由は何でしょうか？

(C:山が多い,雨が多い,台風の通り道…)

全国の自然災害の写真【教材①】とその災害が起こる理由を示す資料【教材④～⑨】を矢印で関連付ける。

T:他の災害についてはどうでしょうか。

※以降、これを繰り返し、板書を構造化していく。

T:日本には、自然災害が起こりやすいさまざまな理由があるのですね。

T:では、これだけ自然災害が起こっているということは、災害で亡くなっている人の数も多いのでしょうか。

世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合（グラフ）【教材⑩】を黒板に貼る。

T:日本の占める割合はたったの1.14%です。日本では自然災害が多いのですが、実は亡くなっている人の数は少ないのです。なぜなのでしょう。

自分の考えたことをノートにまとめさせる。

(C:なにか対策がある,災害から守ってくれる人がいる…)

T:自然災害に対する備えが何かありそうですね。それでは、次の時間からはそのことについて調べていきます。

(10) 評価のポイント

○観察・資料活用の技能

自然災害について資料などから読み取ってまとめている。

○社会的な思考・判断・表現

自然災害の防止の取り組みについて学習問題を考え、表現している。

○「自然災害を防ぐために（公助）」（第2時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」（全4時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつま町で実施されているいろいろな対策について調べ学習を行う。</li> <li>・調べた結果を発表させ、教師が意図的に分類して、その分類意図を考えさせる。その活動を通して、国、都道府県、市町村が行っている「避難場所や危険箇所を事前に知らせる」、「防災情報を早く正確に伝える」、「災害を防ぐための工事を行う」などの「公助」を捉えさせる。</li> </ul>
(3) 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつま町の災害を防ぐ取り組みについてのワークシートによる調べ学習を通じて、授業を展開する。</li> <li>・様々な対策や事業を分類し、その活動を通して、国、都道府県、市町村が行っている「公助」を捉えさせる。</li> </ul>
(4) 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国や地方公共団体により実施されている様々な「公助」を理解する。</li> <li>・堤防整備などの対策により、災害の被害を減らすことができることを知る。</li> <li>・緊急地震速報などを伝える「公助」を理解し、国民が生活に活かしていることを知る。</li> </ul>
(5) 教科書・指導書 該当ページ	<p>教科書：東京書籍「新しい社会5下」P.104～105</p> <p>指導書：・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 指導編 P.104～105</p> <p>・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 研究編 P.106</p>

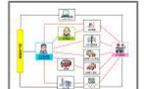
## (6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災の津波被害の写真	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②岩手県普代村の被害状況の写真	板書	
③平成 18 年水害写真	板書	
④さつま町での災害を防ぐ取り組み （ワークシート）	配布	
⑤さつま町での災害を防ぐ取り組み （写真・イラスト）	板書	
⑥岩手県普代村の津波対策の写真	板書	
⑦情報伝達ルートのパズル	板書	

## (7) 参考資料

資料名	形式	備考
日本経済新聞電子版「岩手県普代村は浸水被害ゼロ、水門が効果を発揮（2011/4/1 7:00）」 < <a href="http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK31023_R30C11A3000000/">http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK31023_R30C11A3000000/</a> >	インターネットサイト	岩手県普代村の新聞記事

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (10分)	1 前時のふりかえり 2 東日本大震災の「岩手県普代村」の被害状況の写真を見て、なぜ死者が出なかったのかを考える。  めあて：自然災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本では自然災害が多いのに死者が少ない理由を、東日本大震災で死者がでなかった「岩手県普代村」を例に考えさせる。</li> </ul>	【教材①】  東日本大震災の津波の被害の写真  【教材②】  普代村の被害の写真
展開 (30分)	3 平成18年の学校の近くの水害の様子の写真を見て、さつま町ではどんな自然災害があるかを考える。 4 ワークシートから、さつま町での自然災害の被害を防ぐための取り組みを調べる。 5 調べた結果を発表し、取り組みの機能や仕組みを確認し、分類する。  6 災害が起こりそうなときに、私たちに届く情報はどのように伝えられているのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国土交通省やさつま町が行っていることを捉えさせる。</li> <li>● 普代村でも同じように災害の被害を防ぐための取り組みを行っていたことを捉えさせる。</li> <li>● 国土交通省が雨や川の水位を観測し、災害が起こりそうなときは、さつま町が避難情報を出していることを捉えさせる。</li> </ul>	【教材③】  平成18年水害写真  【教材④】  さつま町での災害を防ぐ取り組み(ワークシート)  【教材⑤】  土砂災害情報、がけ崩れ工事、監視カメラ、防災無線   堤防、ハザードマップ、分水路、避難場所を示す看板  【教材⑥】  普代村の津波対策の写真  【教材⑦】  情報伝達ルートのバスル
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国・都道府県・市町村は自然災害による災害を減らすための「知らせる」、「伝える」、「防ぐ」取り組みをしています。これを「公助」と言います。</li> <li>○ 国土交通省やさつま町が行っている「公助」により、私たちは自然災害から守られています。それだけでよいのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国・都道府県・市町村が行っている「公助」を生かしながら、自分の身を守るために必要な備えについて考えさせる。</li> </ul>	
発展：国や町の取り組みを振り返り、その目的や重要性を確認する。 「国や町の取り組みで、特に大事だと思うことはどれですか。また、それはなぜですか。」			

(9) 板書計画



## 教師の発問（子どもの反応）

T: 前回の授業では、日本では自然災害が多いけれども、亡くなっている人の数は少ないということを学習しましたね。  
東日本大震災の津波の被害の写真【教材①】を見せる。

T: 東日本大震災の津波の写真です。この地震で亡くなった人は15,800人以上だそうです。

普代村の被害の写真【教材②】を見せる。

T: 岩手県にある普代村という小さな村ですが、亡くなった人は0人だそうです。なぜでしょうか。

(C: だれかが何かをした、避難するように放送した)

T: なにか取り組みがありそうですね。

平成18年水害写真【教材③】を見せる。

T: さつま町でも平成18年に大きな洪水が起こり、残念ながら1名の方が亡くなりましたが、災害によって亡くなった方はほとんどいません。なぜでしょうか。

ワークシート【教材④】を配る。

T: これを見て自然災害の被害を防ぐためのさつま町の取り組みを調べてノートにまとめてください。

T: では発表してください。

(C: 堤防を作っている。)

堤防の写真【教材⑤】を黒板に貼る。

T: 大雨が降っても川の水が溢れないようにしているのですね。

以降、児童が発表する内容に合わせて黒板に取り組みの写真・イラスト【教材⑤】を貼り確認することを繰り返す。

T: では、これらの取り組みがどのように分類できるか話し合ってみましょう。

T: では発表してください。

(C: 分水路、土砂崩れ工事、堤防は災害を防ぐための工事。土砂災害情報、防災無線、監視カメラは災害の情報を伝える。洪水ハザードマップや避難場所を示す看板は危険な場所や避難場所を知らせる。)

T: そうですね。このようにさつま町では、国や町が災害を防ぐための工事や、災害の情報を伝えたり、危険な場所や避難場所を事前に知らせる取り組みを行っています。実は普代村でも取り組みがありました。

普代村の津波対策の写真【教材⑥】を見せる。

T: 普代村では1896年に津波により1,000人以上の犠牲者が出ました。そこで岩手県では、二度とこのようなことが起こらないように水門と防潮堤を建設しました。この水門と防潮堤が東日本大震災の津波の被害を防いだのです。

T: さつま町で水害が起こったときに情報を教えてくれるのは国土交通省でしたね。それでは、どのようにみんなに情報を伝えるのかを確認してみましょう。

黒板で情報伝達ルートのパズル【教材⑦】を行う。教師が誘導しながらパズルを完成させていく。

T: 国や都道府県、市町村は自然災害による災害を減らすための「知らせる」、「伝える」、「防ぐ」取り組みをしています。これを「公助」と言います。国や町がみんなを守ってくれているのですね。でもそれだけでいいのでしょうか。

(C: だめです。)

T: 何が大事だと思いますか。

(C: 備えることだと思います。)

T: そうですね。次の時間からは自然災害に備えてわたしたち自身にできることについて考えていきましょう。

## (10) 評価のポイント

## ○社会的事象についての知識・理解

国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていること、自然災害の被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。

○「地域みんなで災害を防ぐ（自助・共助）」（第3時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」（全4時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成18年7月豪雨時の避難者や救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校こどもたちの行動」などから「なぜ自分やみんなの命を守ることができたのか」について、気づいたことや考えたことをもとに話し合う。</li> <li>・自然災害の被害を防止するには、住民相互の協力や日頃からの防災意識が大切であること、日ごろの備えや防災訓練の大切さを知る。</li> </ul>
(3) 学習方法の工夫	・「平成18年7月豪雨時の避難者や救助者の体験談」や「津波時の釜石小学校こどもたちの行動」の事例から、命を守るために何が必要であるかを考えさせ、授業を展開する。
(4) 本時のねらい	・平成18年7月豪雨時の経験や釜石市の小学生の行動から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会5下」P.106～107 指導書： <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 指導編 P.106～107</li> <li>・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 研究編 P.107</li> </ul>

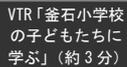
(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①平成18年水害写真	板書	付属DVD（教材データ集）に収録
②東日本大震災の津波被害の写真	板書	
③平成18年洪水時の避難者・救助者の声（ワークシート）	配布	
④さつま町民のイラスト	板書	
⑥NHK「シンサイミライ学校」（片田敏孝先生のいのちを守る特別授業 第1回「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」）※約3分間のVTR< <a href="http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program_sp01/watch03.html">http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program_sp01/watch03.html</a> >	視聴	インターネットサイト
⑤釜石小学校の生徒のイラスト	板書	付属DVD（教材データ集）に収録
⑦さつま町一斉防災訓練の写真	板書	

## (7) 参考資料

資料名	形式	備考
片田 敏孝（2012）「命を守る教育」 PHP 研究所	書籍	岩手県釜石市の小・中学生を救った 防災教育についての書籍

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (10分)	1 前時のふりかえり 2 川内川が増水して溢れそうな状況で、家族と連絡がとれない状況を想像し、自分だったらどうするかを考える。 ○ 近所の人に相談する ○ 避難しようと誘う ○ 家で待って置く ○ 一人で逃げる 3 平成18年洪水の時、さつま町では死者1名、救助された人237名であったのに対し、東日本大震災の時、釜石小学校184名は全員が無事で、救出者も0名だったのはなぜなのかを考える。 めあて：災害を防ぐために、地域ではどんな取り組みが工夫されているのだろうか。		【教材①】  平成18年水害写真 【教材②】  東日本大震災の津波の被害の写真
展開 (30分)	4 ワークシートを見て、さつま町で多くの人を救助しなければならなくなった理由を考える。 ○ 危機感がなかった。 ○ 1人で逃げずに待っていた。 ○ 呼びかけに応じなかった。 ○ 見回りが足りなかった。 5 VTRを見て、なぜ釜石市の子どもたちは逃げるのができたのかを考える。 ○ 一人で避難した。 ○ 避難訓練で練習した。 ○ 避難訓練の実力を発揮した。	● 自分たちのできることを事前に考え、避難訓練をすることにより、自分の命を守ることができることに気づかせる。	【教材③】  平成18年洪水時の避難者・救助者の声 【教材④】  さつま町民のイラスト 【教材⑤】  VTR「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」(約3分) ※岩手県釜石市釜石小学校では、津波襲来時に生徒184名が、防災教育を踏まえた適切な対応と行動をとったことにより、一人の犠牲者も出すことなく、津波の被害を逃れることができました。 【教材⑥】  釜石小学校の生徒のイラスト 【教材⑦】  さつま町一斉防災訓練の写真
まとめ (5分)	○ このように、地域で防災訓練などを行い、共に助け合うことを「共助」といい、自分の身を自分で守ることを「自助」といいます。 ○ 釜石市の子どもたちは、学習や避難訓練で学んだことを実践したため、自分の命を守ることができた。 ○ さつま町でも平成18年の水害の教訓を生かし、避難訓練など、災害から身を守るための取り組みが行われている。 発展：地域の取り組みを振り返り、なぜ地域の取り組みが重要なのか発表する。 「さつま町での避難訓練に参加する場合、どんなことを大事にして参加すればよいと思いますか。」	● 「避難3原則」を伝える。 ・想定にとらわれるな ・最善を尽くせ ・率先避難者たれ	

(9) 板書計画



教師の発問（子どもの反応）

T: 前回の授業では、国や都道府県、市町村は「公助」という自然災害による被害を防いだり減らしたりするための取り組みを行っているということ学習しましたね。では想像してみてください。町内のスピーカーから「避難しましょう。」という放送が流れています。外は大雨です。君は家に一人です。あともう少ししたらお家の人が帰ってきます。不安になって近所の人を見てみると避難していません。どうしますか。

(C: 知っている人に電話をする、家で待っている、一人で避難する…)

平成18年水害写真【教材①】を見せる。

T: さつま町の平成18年の水害のとき、亡くなられた方は1名でしたが、消防や警察に救助された人は237名もいました。

東日本大震災の津波の被害の写真【教材②】を見せる。

T: 東日本大震災のとき、岩手県の釜石市というところでは、大人の生存率60%だったのに対し、小中学生の生存率は98%でした。しかも、釜石市の釜石小学校には生徒が184名いるのですが、みんな外で遊んでいたのにもかかわらず全員が無事でした。なぜでしょうか。

ワークシート【教材③】を配る。

まず最初に、さつま町ではなぜ237名も救助される事態になったのでしょうか。平成18年洪水時の避難者・救助者の体験談から分析して、ノートにまとめましょう。

黒板にさつま町民【教材④】のイラストを貼る。

T: では発表してください。

(C: 避難を呼びかけたけど応じてもらえなかった。)

T: なぜ応じてもらえなかったのでしょうかね。

(C: これまで大丈夫だったから。危機感がなかったから。)

T: では反対に、釜石小学校の子どもたちが全員無事だったのはなぜでしょうか。VTRを見て気づいたことをノートにメモしてください。

VTR「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」(約3分)【教材⑤】を視聴する。

T: では発表してください。

(C: 一人でも避難していた、お父さんを連れて避難した、避難訓練をしていた。)

答え応じて釜石小学校の生徒のイラスト【教材⑥】を黒板に貼っていく。

T: 普段から訓練をしていたから実力を発揮することができたんですね。

T: 釜石小学校の生徒は「避難3原則」を学習していました。1つめは「想定にとられるな」、2つめは「最善を尽くせ」、3つめは「率先避難者たれ」です。想定にとられずに、今できる最善のことを自分で考えて、率先して避難したために、釜石小学校の生徒は津波から生き延びることができたのです。このように、自分の身は自分で守ることを「自助」といいます。そして避難訓練など、地域みんなで協力して災害を防ぐ取り組みを「共助」といいます。実はさつま町でも、平成18年水害の教訓を生かして、防災訓練を行っています。

さつま町一斉防災訓練の写真【教材⑦】を見せる。

T: みなさんも、釜石小学校の小学生のように自分の身を自分で守るために、普段から避難訓練に真剣に取り組むことが大事ですね。では次の時間からは、自分の身を守るためにはどうすればいいのかを学習していきたいと思います。

(10) 評価のポイント

○社会的事象への関心・意欲・態度

自然災害の防止の重要性に関心を持ち、協力の大切さを考えようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え、自然災害が起こりやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。

○「自然災害から身を守るためにわたしたちができること」（自助）（第4時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」（全4時間）のまとめの時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治水対策を行っていても想定外の洪水が起こる可能性があることを気づかせる。</li> <li>・さつま町で起こりやすい水害や土砂災害などから身を守るために、防災に関する情報を知り、避難場所・避難経路を確認し、必要な持ち物を用意しておくこと大切さに気づかせる。</li> </ul>
(3) 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民会単位のハザードマップで自宅近くや学校、通学路の危険な場所、地域の避難所を確認させる。</li> <li>・これまでの学習内容やワークシートの内容をもとに、グループで災害に備えてできることについて話し合わせ、発表させる。</li> </ul>
(4) 本時のねらい	・これまでの学習をふりかえり、災害に備えて自分たちにできることについて話し合うことで、自助の意識を高める。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：東京書籍「新しい社会5下」P.106～107 指導書： <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 指導編 P.106～107</li> <li>・東京書籍「新しい社会5下」教師用指導書 研究編 P.107</li> </ul>

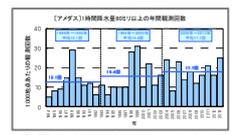
(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①昭和47年のさつま町での洪水被害とその後の堤防整備の写真	板書	付属DVD（教材データ集）に収録
②集中豪雨（1時間降水量80ミリ以上）が増加しているようす（グラフ）	板書	
③平成18年洪水の体験談VTR	視聴	
④水位レベル表示（写真）	板書	
⑤防災無線（写真）	板書	
⑥地デジデータ放送	板書	
⑦監視カメラ（写真）	板書	
⑧川内川河川事務所「早よ見やん川内川」 < <a href="http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/">http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/</a> >	ICT 板書	インターネット
⑨ハザードマップ	配布	付属DVD（教材データ集）に収録
⑩非常持出袋（写真）	板書	
⑪自然災害に備えて私たちにできること（ワークシート）	配布	

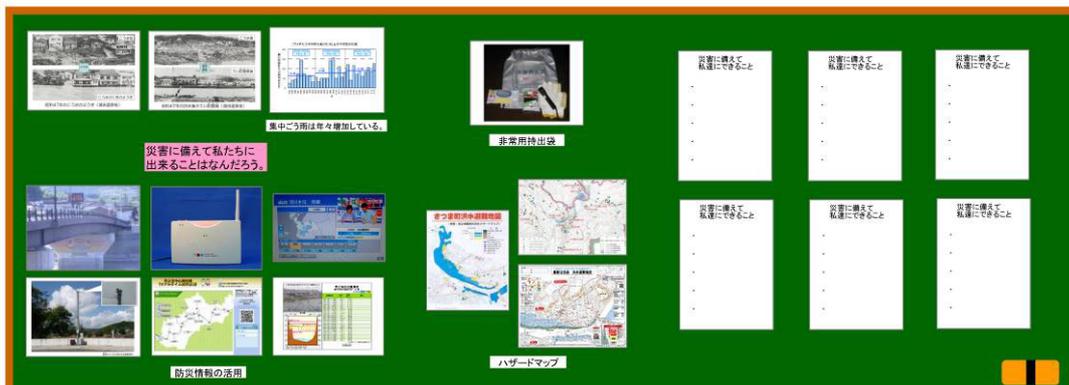
(7) 参考資料

資料名	形式	備考
非常時持出品カード	P P T	付属 DVD（教材データ集）に収録
川内川防災教室	P D F	

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説
導入 (5分)	<p>1 前時のふりかえり</p> <p>2 さつま町では公助や共助により災害を防ぐためのさまざまな取り組みが行われているが、災害の危険性がなくなったわけではないことを伝える。</p> <p>○ さつま町では昭和47年に大きな洪水があり、その後堤防の整備などの治水対策を行ったが、平成18年に再び大きな洪水が起こってしまった。</p> <p>○ 平成18年の洪水後、さつま町ではさまざまな治水対策を行っているが、集中豪雨は年々増加しており、災害の危険性が高まっている。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて：災害に備えて私たちにできることはなんだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 治水対策を行っていてもそれを超える大きな洪水が起こる可能性があることを気づかせる。</li> </ul>	<p>【教材①】</p>  <p>昭和47年の川内川での洪水被害と堤防整備の写真</p> <p>【教材②】</p>  <p>集中豪雨(1時間降水量80ミリ以上)が増加傾向であることを示しているグラフ</p>
展開 (35分)	<p>3 平成18年洪水の体験談VTRを見て、逃げ遅れないためにはどのようなことをしなければならぬかを考える。</p> <p>○ どのように防災情報を活用すればよいのだろうか。</p> <p>4 ハザードマップで災害時に自分はどこへ避難すればいいかを確認する。</p> <p>5 避難する時にどのようなものを持ち出せばいいかを考える。</p> <p>6 グループで災害に備えてできることについて話し合い、「災害に備えて私たちにできること」と題したリストを模造紙などに作成し、発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発展：非常時持出品カード(参考資料)を使い、避難時に持ち出す必要があるものとその理由を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">非常時持出品カード</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活用できる防災情報を知り、避難に備えることの大切さに気づかせる。</li> <li>● 自宅、学校の下校時、よく遊んでいる公園等、様々な場所にいることを想定させ、その際の避難場所を確認させる。</li> <li>● 避難の時にすぐに持ち出せるように、普段から備えておく必要があることを気づかせる。</li> <li>● これまでの学習をふりかえらせ、防災・減災に必要なことを考えさせる。</li> <li>● 洪水の時は、1人で避難するのは危険なため、2人以上で避難することを指導する。</li> <li>● 避難勧告等が発令された時、速やかに避難することを指導する。</li> </ul>	<p>【教材③】 平成18年洪水の体験談VTR</p> <p>【教材④】 水位レベル表示</p> <p>※洪水の体験談はVTRの3分11秒から始まります。</p> <p>【教材⑤】 防災無線</p> <p>【教材⑥】 地デジデータ放送</p> <p>【教材⑦】 監視カメラ</p> <p>【教材⑧】 「早見やん川内川」</p> <p>【教材⑨】 ハザードマップ</p> <p>【教材⑩】 非常時持出品</p> <p>【教材⑪】 自然災害に備えて私たちにできること(ワークシート)</p>
まとめ (5分)	<p>○ 自然災害の危険を回避するために、日ごろから備えておくことが大切です。</p>		

(9) 板書計画



教師の発問（子どもの反応）

T: これまでの授業で、日本は自然災害が起こりやすい国だということを学習しましたね。そして自然災害を防ぐために国や県、市町村では「公助」、地域では「共助」という取り組みを行っていましたね。では、これらの取り組みによりさつま町では自然災害の危険がなくなったのでしょうか。

昭和47年のさつま町での洪水被害と堤防整備の写真【教材①】を見せる。

T: これは、昭和47年に川内川で起こった洪水の写真です。川内川ではこの後、このような大きな洪水被害が起こらないように高い堤防を作るなど、水害を防ぐ工事を行いました。平成18年にさつま町ではこれまで経験したことがないような大雨が降り、再び大きな洪水が起こってしまったのです。

集中豪雨（1時間降水量80ミリ以上）が増加しているようす（グラフ）【教材②】を見せる。

T: 平成18年の洪水の時、宮之城では最大時間雨量89mmの大雨が降りました。このグラフはその大雨と同じくらいの量の雨が日本で増加傾向にあることを示しています。つまり日本では、年々自然災害の危険が増えているのです。私たちはどうすればいいのでしょうか。

(C: 水害に備えておく。)

T: そうですね。平成18年の洪水の後、さつま町では洪水を防ぐさまざまな工事を行っていますが、それを超える大きな洪水が起こるかもしれないので、備えておくことも必要ですね。

平成18年洪水の体験談VTR【教材③】を見せる。

T: お話をしてくださった方たちはなぜ逃げ遅れてしまったのでしょうか。

(C: 今までの経験上油断をしていたから、災害情報を知らなかったから…)

水位レベル表示の写真【教材④】を黒板に貼る。

T: これは川の水位がどれくらいまで上がると危険なのかという表示で、避難の判断の目安になります。他にはこのようなものがあります。みんなのお家にもある防災無線や地デジデータ放送です。これで災害の情報を知ることができます。

防災無線【教材⑤、⑥】の写真を黒板に貼る。

監視カメラの写真【教材⑦】を黒板に貼り、インターネットで「早よ見やん川内川」【教材⑧】を見る。（インターネット環境がない場合は、写真を黒板に貼る。）

T: これは川内川の監視カメラの映像を見ることができるインターネットサイトです。これなら川に近づかなくても川の様子が見れますよね。このように洪水の危険があるときは情報を集めて避難に備えることが大切です。

ハザードマップ【教材⑨】を配り、避難場所と避難経路を確認させる。

T: これはハザードマップといって、洪水や土砂崩れの危険がある箇所と避難場所を示した地図で、さつま町が作成したものです。このハザードマップを基に地域の方々が作成したのが轟原公民会洪水避難地図です。避難ルートや避難に手助けが必要な方と誰が手助けするかなども分かるようになっています。自分の身は自分で守る「自助」と前の時間にも学習した、地域の人々で協力して災害を防ぐ「共助」を合わせた取り組みですね。では、ハザードマップで避難場所や安全な避難経路を確認してみましょう。

非常持出袋【教材⑩】を見せる（実物がなければ写真）。

T: これは非常持出袋といって、いざというときにすぐに持ち出せるように、避難に必要なものを入れておく袋です。みなさんも、いざというときに備えて非常持出袋を準備しておきましょう。

自然災害に備えて私たちにできること（ワークシート）【教材⑪】を配る。

T: 今からグループで、ワークシートを見たり、これまで学習してきたことを思い出して自然災害に備えて私たちにできることを考えてみてください。

模造紙などの紙にリスト化させ、発表させる。

T: みなさんが今発表したことをお家の人にも教えてあげてください。そして自然災害を防ぐために何をすればいいのかお家の人と話し合ってみてください。

(10) 評価のポイント

○社会的事象への関心・意欲・態度

自然災害の防止の重要性に関心を持ち、協力の大切さを考えようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

国土の環境が人々の生活と密接な関連を持っていることを考え、自然災害が起こりやすい我が国においては、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることを表現している。

<出典一覧>

○第1時

全国の自然災害の写真	○地震(兵庫県)	(財)消防科学総合センター「災害写真データベース」 < <a href="http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do">http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do</a> >
	○津波(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
	○噴火(宮崎県新燃岳)	宮崎県・鹿児島県 霧島山(新燃岳)噴火に関する政府支援チーム (2011)「霧島山(新燃岳)噴火時に噴石等から身を守るために」
	○台風(沖縄県宮古島市)	宮古島地方気象台提供
世界全体に占める日本の国土面積の割合(世界地図)		樹商事株式会社「世界地図」< <a href="http://sekaichizu.jp">sekaichizu.jp</a> >
世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合(グラフ)		内閣府「平成25年版防災白書」(付属資料35) < <a href="http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm">http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm</a> >
日本の国土の地形(グラフ)		総務省統計局「日本統計年鑑」 < <a href="http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm">http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm</a> >
「台風はいつごろ近づくの」		国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」 < <a href="http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/">http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/</a> >
世界の地震の震源の分布		内閣府「平成22年版防災白書」 < <a href="http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h22/index.htm">http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h22/index.htm</a> >
世界の火山の分布		
世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の割合(グラフ)		内閣府「平成25年版防災白書」(付属資料8) < <a href="http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm">http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm</a> >

○第2時

東日本大震災の津波被害の写真(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
岩手県普代村の被害状況の写真(岩手県普代村)	普代村地域振興室提供

○第3時

東日本大震災の津波被害の写真(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
片田敏孝先生のいのちを守る特別授業 第1回 VTR「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」	NHK「シンサイミライ学校」< <a href="http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/">http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/</a> >

○第4時

集中豪雨(1時間降水量80ミリ以上)が増加しているよう す(グラフ)	気象庁「アメダスで見た短時間強雨発生回数の長期変化について」 < <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/heavyraintrend.html">http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/heavyraintrend.html</a> >
自然災害に備えて私たちにできること ○気象警報の種類	気象庁「気象警報・注意報の種類」 < <a href="http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/warning_kind.html">http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/warning_kind.html</a> >

<参考文献>

- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説 社会編」
- ・国立教育政策研究所, 教育課程研究センター(2011)「評価基準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校 社会)」



お問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所 調査課

〒895-0075 鹿児島県薩摩川内市東大小路町20-2

TEL:0996-22-3271 (代) FAX:0996-22-6907 (代)